

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年2月12日

【四半期会計期間】 第62期第3四半期(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)

【会社名】 エステールホールディングス株式会社

【英訳名】 ESTELLE HOLDINGS CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 丸山 雅史

【本店の所在の場所】 東京都港区虎ノ門四丁目3番13号

【電話番号】 03 - 5777 - 5120(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 河合 瑞人

【最寄りの連絡場所】 東京都港区虎ノ門四丁目3番13号

【電話番号】 03 - 5777 - 5120(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 河合 瑞人

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第61期 第3四半期 連結累計期間	第62期 第3四半期 連結累計期間	第61期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年12月31日	自 2019年4月1日 至 2019年12月31日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (百万円)	24,220	24,191	32,504
経常利益 (百万円)	904	1,050	1,343
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (百万円)	323	480	686
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	295	449	658
純資産額 (百万円)	13,368	13,999	13,731
総資産額 (百万円)	34,221	35,449	33,670
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	30.35	45.18	64.49
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	38.9	39.1	40.6

回次	第61期 第3四半期 連結会計期間	第62期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年10月1日 至 2018年12月31日	自 2019年10月1日 至 2019年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	37.04	16.45

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業業績や雇用環境の改善等を背景に全体としては緩やかな回復基調にあるものの、米中の貿易摩擦問題や英国のEU離脱問題などにより先行き不透明な状況で推移しました。個人消費におきましても、消費税増税や相次ぐ自然災害が消費者心理に与える影響から、依然として節約志向が根強く続いております。

当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は、消費税増税の影響などにより、241億91百万円(前年同期比0.1%減)となりました。営業損益は、宝飾品事業での不採算店舗の圧縮による販売費の減少などにより10億65百万円(前年同期比17.0%増)となり、経常利益は、海外子会社における為替差損などにより10億50百万円(前年同期比16.1%増)となりました。親会社株主に帰属する四半期純損益は、4億80百万円(前年同期比48.5%増)となりました。

セグメントの業績は次のとおりです。

宝飾品

外部顧客への売上高は、210億72百万円(前年同期比1.6%減)となり、セグメント利益は12億43百万円(前年同期比6.9%増)となりました。

眼鏡

外部顧客への売上高は、16億68百万円(前年同期比8.7%増)となり、セグメント利益は1億2百万円(前年同期比57.4%増)となりました。

食品販売・飲食店

外部顧客への売上高は14億50百万円(前年同期比13.9%増)となり、セグメント損益は2億85百万円の損失(前年同期は3億23百万円の損失)となりました。

当四半期における当社グループの主な店舗展開は以下のとおりです。

セグメント	宝飾品	眼鏡	食品販売・飲食店
会社名	As-meエステール(株)	キンバレー(株)	ヴィレッジヴァンガード プレース(株)
前期末店舗数	380	59	30
新規出店	13	2	3
閉店	18	0	2
当四半期末店舗数	375	61	31

(2) 財政状態

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末の336億70百万円より17億79百万円増加し、354億49百万円となりました。主な増減は、現金及び預金の増加9億70百万円、商品及び製品などのたな卸資産の増加9億75百万円と、有形固定資産の減少1億13百万円、敷金保証金の減少1億14百万円などです。

負債合計は、前連結会計年度末の199億39百万円より15億11百万円増加し、214億50百万円となりました。主な増減は、長期借入金の増加9億77百万円、支払手形及び買掛金の増加5億80百万円、未払賞与などの流動負債のその他の増加2億88百万円及び1年内返済予定の長期借入金の増加1億12百万円と、法人税等の支払による未払法人税等の減少2億81百万円、賞与引当金の減少2億58百万円などです。

純資産合計は、前連結会計年度末の137億31百万円より2億68百万円増加し、139億99百万円となりました。主な増減は、親会社株主に帰属する四半期純利益4億80百万円、剰余金の配当2億86百万円などによる利益剰余金の増加2億4百万円などであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	15,000,000
計	15,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (2020年2月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	11,459,223	11,459,223	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数100株
計	11,459,223	11,459,223		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年10月1日～ 2019年12月31日		11,459,223		1,571		1,493

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 831,300		
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,605,700	106,057	
単元未満株式(注)	普通株式 22,223		
発行済株式総数	11,459,223		
総株主の議決権		106,057	

(注) 「単元未満株式」の普通株式には、当社所有の株式53株が含まれております。

【自己株式等】

2019年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) エステールホールディングス株式会社	東京都港区虎ノ門四丁目 3番13号	831,300		831,300	7.25
計		831,300		831,300	7.25

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2019年10月1日から2019年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、爽監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,453	9,424
受取手形及び売掛金	2,705	2,724
商品及び製品	9,585	10,080
仕掛品	1,682	1,752
原材料及び貯蔵品	2,529	2,940
その他	178	270
貸倒引当金	1	1
流動資産合計	25,134	27,190
固定資産		
有形固定資産	2,570	2,456
無形固定資産		
のれん	185	143
その他	223	204
無形固定資産合計	409	348
投資その他の資産		
敷金及び保証金	3,047	2,932
その他	2,510	2,522
貸倒引当金	1	1
投資その他の資産合計	5,556	5,453
固定資産合計	8,536	8,258
資産合計	33,670	35,449
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,339	4,920
1年内返済予定の長期借入金	3,790	3,903
未払法人税等	422	140
賞与引当金	498	240
その他	2,381	2,670
流動負債合計	11,433	11,874
固定負債		
長期借入金	6,200	7,178
役員退職慰労引当金	622	633
退職給付に係る負債	1,595	1,574
資産除去債務	83	94
事業損失引当金	3	81
その他	-	13
固定負債合計	8,505	9,576
負債合計	19,939	21,450

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,571	1,571
資本剰余金	3,384	3,384
利益剰余金	9,248	9,453
自己株式	570	570
株主資本合計	13,634	13,839
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	43	45
為替換算調整勘定	25	45
退職給付に係る調整累計額	26	13
その他の包括利益累計額合計	44	12
非支配株主持分	52	147
純資産合計	13,731	13,999
負債純資産合計	33,670	35,449

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	24,220	24,191
売上原価	9,199	9,341
売上総利益	15,021	14,850
販売費及び一般管理費	14,111	13,785
営業利益	910	1,065
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	6	5
受取手数料	26	27
その他	22	10
営業外収益合計	55	44
営業外費用		
支払利息	31	28
為替差損	1	11
その他	28	18
営業外費用合計	61	59
経常利益	904	1,050
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	4	
受取補償金	11	1
特別利益合計	17	1
特別損失		
店舗閉鎖損失	8	10
減損損失	132	178
事業損失引当金繰入額	24	
特別損失合計	165	189
税金等調整前四半期純利益	756	863
法人税等	436	382
四半期純利益	319	480
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失()	3	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	323	480

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	319	480
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3	2
為替換算調整勘定	3	20
退職給付に係る調整額	17	13
その他の包括利益合計	24	31
四半期包括利益	295	449
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	298	448
非支配株主に係る四半期包括利益	3	0

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(1) 連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間において、サイゴンオプティカルCO.,LTD及び愛思徳(杭州)珠宝有限公司は、解散を決議したため、連結の範囲から除外しております。

(2) 持分法適用の範囲の重要な変更

該当事項はありません。

(四半期特有の会計処理)

税金費用については、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益又は損失に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりです。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
減価償却費	433百万円	485百万円
のれんの償却額	41	41

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年5月10日 取締役会	普通株式	324	30円00銭	2018年3月31日	2018年6月29日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額には、株式会社化60周年記念配当3円を含んでおります。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年5月13日 取締役会	普通株式	286	27円00銭	2019年3月31日	2019年6月12日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 財務諸表 計上額 (注) 2
	宝飾品	眼鏡	食品販売・ 飲食店			
売上高						
外部顧客への売上高	21,413	1,535	1,272	24,220		24,220
セグメント間の内部売上高 又は振替高						
計	21,413	1,535	1,272	24,220		24,220
セグメント利益 又は損失()	1,163	65	323	905	5	910

(注) 1. セグメント利益又は損失()の調整額5百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「宝飾品」、「眼鏡」及び「食品販売・飲食店」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を認識し、それぞれ、79百万円、19百万円及び34百万円を特別損失に計上しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 財務諸表 計上額 (注) 2
	宝飾品	眼鏡	食品販売・ 飲食店			
売上高						
外部顧客への売上高	21,072	1,668	1,450	24,191		24,191
セグメント間の内部売上高 又は振替高						
計	21,072	1,668	1,450	24,191		24,191
セグメント利益 又は損失()	1,243	102	285	1,060	4	1,065

(注) 1. セグメント利益又は損失()の調整額4百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「宝飾品」、「眼鏡」及び「食品販売・飲食店」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を認識し、それぞれ、1億31百万円、6百万円、40百万円を特別損失に計上しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
1株当たり四半期純利益	30円35銭	45円18銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	323	480
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	323	480
普通株式の期中平均株式数(千株)	10,658	10,627

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月10日

エステールホールディングス株式会社

取締役会 御中

爽監査法人

代表社員
業務執行社員

公認会計士 登 三 樹 夫

代表社員
業務執行社員

公認会計士 熊 谷 輝 美

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているエステールホールディングス株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(2019年10月1日から2019年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、エステールホールディングス株式会社及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。